

輪島工房長屋

輪島塗の工芸家たちの工房が入った、輪島の中心に近い木造の建物 5 棟を訪れ、旋盤を回したり、木地を彫るところから、最後に装飾を加えるところまで、工程の一部を見ることができます。

路地で分けられた 2 棟の建物には、工房が入っています。訪れる人は、工房のいくつかに入り工程を間近で見て、職人と話ができます。木地工房では、職人が小さな旋盤を回して木の椀を作っています。耐久性があるとともに彫りやすいケヤキが広く使われています。

塗工房を訪れる人は、輪島の「地の粉」(珪藻土) を練ったものを木地に下塗りする工程を見ることができます。この工程は、漆を塗る前に素材を滑らかにし、強化するのに役立ちます。また、お椀や茶碗の薄い縁といった傷つきやすい部分は、下地や漆を塗る前に布で補強します。

漆を塗るにはほごりが一切ない環境が必要なため、訪問者はこの工房には入れませんが、窓から工程を見ることができます。路地を渡ると、地元の漆器職人が新しい作品を創っている小さな工房がいくつかあります。

3 番目の建物には、ギャラリーと店舗があります。また、訪れる人が、蒔絵や沈金という技法を使って、漆塗りの四角形の木板やお箸を装飾することができる工房もあります。蒔絵の場合、漆を接着剤として使い、漆が乾く前に金粉や銀粉を蒔いて模様にしします。沈金の場合、漆を塗った表面に、鋭い金属の道具を使って模様を彫ります。それから、線に金粉をすり込んで、金の模様を作ります。参加者は、漆器を加工する前に、自分の模様を紙に下書きすることができます。

体験工房は、午前 9 時から午後 5 時まで開いています。(水曜日はお休みです。) 体験の申し込みは午後 3 時 30 分に終了します。